

ハーモニー

Harmony

第48号 2008年12月12日発行

日本養護教諭教育学会

Japanese Association of Yogo Teacher Education

日本養護教諭教育学会

事務局：〒448-8542

刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学養護教育講座
後藤研究室

TEL&FAX 0566-26-2491

振替口座：00880-8-86414

<http://www.yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp>

目次

第16回学術集会（岡山）の報告	2
第16回学術集会を終えて	2
第16回学術集会を終えて	3
第16回学術集会参加者の声	3
第16回学術集会アンケート結果	4
第16回学術集会プレコンGRES報告	
(1)「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集<第一版>」 に関する意見交流 PART 2	5
(2)「養護の職業倫理」に関する意見交流	6
2008年度総会報告（速報）	7
2009年度研究助成金研究の選定報告	7
2008年度理事選挙について	8
事務局より	8
編集後記	8

第16回学術集会（岡山）の報告 — 榎の木が燃えた —

学会長 高橋香代
(岡山大学大学院教育学研究科)

「養護実践における理論構築—『からだをみる』を科学する—」をメインテーマに岡山大学で開催した第16回学術集会が、400名あまりの方々に参加いただき無事終了いたしました。後藤理事長を始め、会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

抄録集の表紙は、榎の木と瀬戸内海をモチーフにしました。この榎の木は、孔子廟から閑谷学校を経由して、岡山大学に移植された学問の木です。今年の秋、時計台の前にある榎の木は、学術集会に参加いただいた皆様の熱気で一層赤く燃えたように感じます。

学術集会は、プレコンgresに始まり、学会長基調講演、特別講演「熱中症を科学する」、シンポジウムⅠ「養護教諭がからだをみる視点」、ワークショップ「養護教諭のコーディネート力」、ランチョンセミナー「学校健診でみる『からだ』～健診からわかる正常・異常～」、シンポジウムⅡ「養護教諭がコーディネート力を育てるには」へとメインテーマを展開していただきました。一般演題も40題を数え、会員に熱心な議論をいただいたことは何よりの成果です。

懇親会では、祭り寿司や地酒、桃太郎ぶどう等岡山の味をお楽しみいただくとともに、岡山検定クイズでも盛り上がっていただきました。事務局では、手作りで岡山らしさをと心がけました。至らぬ点も多々あったことと思いますが、ご寛恕ください。

最後に、弘前での第17回学術集会のご成功を祈って、学術集会のご報告といたします。

第16回 学術集会を終えて

実行委員長 門田新一郎
(岡山大学)

会員の皆様、そして、岡山県、その他の県からの多くの養護教諭や養護教諭養成機関からの400名を超えるご参加をいただき、第16回学術集会を無事に終えることができました。これも、演者、座長、学会役員、実行委員のご協力によるものと心から感謝しております。高橋学会長、三村事務局長、松枝委員、田嶋委員には岡山での開催が決まってから学会当日まで熱心に取り組んでいただき、実行委員長はずいぶん助けられました。

今回のメインテーマである『養護実践における理論構築～「からだをみる」を科学する～』を基本に、特別講演、ランチョンセミナー、シンポジウムを企画しました。伊藤先生の特別講演「熱中症を科学する」と小倉先生のセミナー「学校健診でみる『からだ』～健診からわかる正常・異常～」は、学校現場の養護教諭の活動に直接関係のある内容で、参加者からも好評でした。実行委員長としてお二人の講師には心から感謝しております。

シンポジウムⅠ「養護教諭がからだをみる視点」とシンポジウムⅡ「養護教諭がコーディネート力を育てるには」では、フロアからも積極的な発言を多くいただくことができました。この2つのシンポジウムから養護教諭養成の新たな課題と展望が開けたように思われます。

本学術集会に41題の一般演題をいただいたことが、最大の成果であったと言えるでしょう。今回の弘前集会で皆様と再会できることを楽しみにしております。

第16回 学術集会を終えて

実行委員 松枝 睦美
(岡山大学)

会員の皆様のご協力をおもちゃまして、第16回学術集会を終えることができました。心よりお礼申し上げます。

この度の学術集会は、『養護実践における理論構築－「からだをみる」を科学する－』のメインテーマを切り口に、これまでの養護実践をふまえて、理論構築にむけた視点をもって多角的に発展させることができたなら・・・と、高橋香代学会長を中心とした実行委員で、シンポジウム、ワークショップ、特別講演、ランチョンセミナーの内容を企画いたしました。

しかし、アツイ想いで準備はできて、全ては講師やコーディネーター、指定発言の先生方の多大なるご協力があってこそ、私たちのめざす岡山大学らしい学術集会を開催することができました。この場をお借りしましてお礼申し上げます。

第15回学術集会の総会で、ご案内をさせていただいた日が事務局の初仕事となった私どもの役割は、打ち合わせ、連絡調整、会場下見や抄録集作成などに追われる日々でしたが、今では懐かしい充実した思い出となりました。

当日は、全国から多くの方にご参加いただくことができました。主催者の一人として心から感謝申し上げます。また、私どもの予想を上回るご参加をいただきまして、会場では窮屈な思いをさせていただきましたことや、一般演題の発表も日程の都合で過密なスケジュールとなってしまいましたこと、さらに業者の手違いで学会の看板の掲示ができなかったことなどの不備をお詫びいたします。岡山大学教育学部養護教諭養成課程、養護教諭特別科、大学院の学生たちも全国学会のお手伝いを経験させていただきました。至らない点も

多々あったと思いますが、参加者の方々から「澁刺としたよい笑顔に迎えられました」「よい学会でしたね」など、労いのお言葉を頂くこともでき、学生にとってもよい経験となったと感じています。

最後に、理事長・学会長をはじめとする会員の諸先生方の励ましと温かいご支援に心から感謝いたします。

◇◇第16回学術集会参加者の声◇◇

もっとしなやかにもっとしたたかに

坂井 敬子(福岡県大川市立宮前小学校)

岡山大学のいちょう並木が色づく秋、第16回学術集会に参加しました。これまで、熊本の学術集会で学会に入会したものの、その後は遠距離の会場のため、なかなか参加できずに抄録集を読むだけになっていました。今年は九州に近い岡山で開催とのことで、参加してみようと思いたちました。

1日目の学会前には、プレコンgresがあり、会終了後には、ワークショップ、2日目も昼食中にランチョンセミナーと2日間休む暇なく勉強しました。今回のメインテーマである「養護実践における理論構築『からだをみる』を科学する」では高橋学会長より「もっとしなやかにもっとしたたかに」と、コーディネーターとして反省的实践家として専門性を生かす養護教諭になることを熱く語られたことが心に残ります。また、シンポジウムでは養護教諭が「からだ」を「みる」にこだわり続け、コーディネート力を養い、いかに育てていくか議論しました。2日目は、初めて一般口演で発表させていただきました。拙い内容でしたが、フロアの皆様から様々なご意見やアドバイスをいただき、ありがとうございます。自分の実践を反省し、今後の研究の支えとして大いに参考となりました。学会に参加することは、自分の中

に専門性を持ち続け、職務への大きな刺激を受ける良い機会です。

今後は、ぜひ毎年参加し自己研鑽します。この学術集会に、お世話いただいた関係者の皆様、また岡山大学の学生さんに深く感謝申し上げます。

第16回学術集会に参加して

佐方 仁美 (熊本大学大学院 1年生)

岡山の秋の空は、高く晴れ渡り、まるでこの学術集会に集う、また開催を運営し支える全ての皆様の「こころ」のようでありました。

知人から、本学会が養護教諭について深く学べる場であることは聞いており、学術集会につきましても常々関心がありました。これまで地元熊本での開催(2004)のほかは参加のチャンスが得られませんでした。この度念願かない参加することができました。

学術集会当日、期待に胸がふくらみます。メインテーマは「養護実践における理論構築—『からだをみる』を科学する—」。1日目の学会長基調講演から2日目のシンポジウムⅡまで、勿論「懇親会」を含めて、全て参加させていただきました。やはり！各企画とも熱い意気込みが伝わってきて、期待を裏切ることのない素晴らしい内容に十分に満足できました。また、運営の皆様の細やかな心配りには、ほっ…とあたたかさが伝わってまいりました。

養護教諭としての毎日の執務の中には、疑問を抱きこたえを求めたくなることが、数限りなくあります。一本の柱、多角的な構成での今回の学術集会の内容は、まさに明日からの日々の実践に活かしていけるものであり、実際に熊本に戻ってからの実践の中で少しずつ活かしているところです。そして何より、「見え方」が変化していることに気づかされます。

このような高い知見を学び実践につながる機会を与えてくださった全ての皆様に感謝申し上げます。

一期一会。懇親会での岡山の葡萄の爽やかな味、

天下一品の佳味とともに、本学術集会をいつまでも憶えておきたいと思います。

第16回学術集会アンケート結果

実行委員会

日本養護教諭教育学会第16回学術集会を無事に開催することができ、本紙にて会員の皆様にご報告できますことを大変嬉しく思います。学術集会の際にいただきました貴重なご意見をまとめましたのでご報告いたします。

回答者の地域

岡山市(6)、岡山県(12)、他県(36)、無回答(4)、計58名

1. 学術集会開催を知った情報源(複数回答)

学会誌(17)、ハーモニー(17)、雑誌(15)、ホームページ(12)、教育委員会(8)、チラシ(3)

☆学会誌やハーモニー、ホームページなど会員の皆様に向けてのご案内、また雑誌やチラシなど会員以外の皆様へのご案内がそれぞれ効果的だったものと思います。また、岡山県内の養護教諭の皆様へのご案内も県の教育委員会・養護部会から行いました。

2. 興味を持った内容(複数回答)

シンポジウムⅠ(29)、ランチョンセミナー(25)、特別講演(21)、学会長基調講演(20)、シンポジウムⅡ(15)、一般演題(14)、ワークショップ(13)、学会助成研究(12)、ポスター(5)

☆学術集会のメインテーマに合わせて企画しましたシンポジウム、特別講演、ランチョンセミナーなどは好評でした。

3. 運営に関する感想・意見

①会場へのアクセス

大変良い(13)、良い(28)、ふつう(14)、良くない(2)

②会場の広さ

ちょうど良い(44)、狭い(13)、広い(1)

③会場の設備

十分(36)、改善必要(8)

④スタッフの対応

大変良い(29)、良い(23)、ふつう(4)、良くない(0)

⑤学会の日程

適当(53)、短縮(3)、長く(0)

アンケートにご協力いただきました方々にお礼を申し上げます。皆様からの貴重なご意見・ご要望は、第17回学術集会の実行委員会へ申し送りさせていただきます。

(実行委員 三村由香里)

第16回学術集会プレコンgress報告

理 事 会

学術集会1日目(10月18日)の開催前である午前10時～12時に理事会主催で下記のような2題のプレコンgressを企画し、会員間の意見交流を行いました。寄せられた意見等は今後の学会活動に反映させていきたいと思えます。

(1)「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集(第一版)」に関する意見交流 PART2

世話人：鈴木 裕子(国士舘大学)
徳山美智子(大阪女子短期大学)

昨年に引き続き、学会活動の企画のひとつとして標記の意見交流を行いました。34名(うち学会員19名)の参加を得て、小グループでの意見交換の後、全体で協議する形をとりました。

今回は、特に中央教育審議会答申や学校保健法改正に関連の深い4つの用語「10. 養護教諭の職務」「14. 保健室」「15. 保健室経営」「16. 健康相談活動」を中心にご意見をいただきました。

その結果、特に「養護教諭の職務」について多くの意見が出されました。主な意見は、「定義は

法の規定よりも、それをふまえた内容を示してほしい」「昭和47年や平成9年の保健体育審議会答申は重要。平成20年の中央教育審議会答申にもふれる」「解説の中に“職務内容”も根拠をもって示す」「類義語に“役割”も加える」「役割のとらえ方も含めて説明する」「中央教育審議会答申に示された職務に関する5項目を挙げる」「コーディネーションについては養護教諭が行うコーディネートをもっとわかりやすく考えるべき」「養護教諭自身が主体的に考えた仕事が必要」などでした。さらに、「養護教諭」については「教育職であることや専門職としての他教師との違いを明確にするべき」「Yogo teacherで海外に通じるかわからないが、認識が広まれば通用すると思う」との意見がありました。

「保健室」については、「小学校外国語活動で nurse room (nurse は養護の意を含む広義のもの)としていた」「それぞれの表現ではなく統一した表記が大事である」「保健室の役割がわかる英語表記が望ましい」「養護教諭以外の人もわかるように、機能について表記するのがよい」「解説の中に“保健室に求められる機能”とあるが、求められるのではなく、こういう機能が必要だというように主体的に書いてほしい」などの意見でした。

「保健室経営」では、「“運営”と“経営”について説明する必要がある」との意見がありました。

用語集全般についてもさまざまなご意見をいただきました。「解説すべてを変えるのではなく、つけ足していく方向で」「法律等の改正による修正は随時必要」「条文を細かく書くと、それにとられる懸念があるので注意してほしい」「特別な支援を必要とする子どもへの対応についても取りあげてほしい」などがあり、「養護教諭が考える定義は別にあると考え、学会が決めたことと捉えていた」との意見の一方で、「わからないことがあれば、学会の用語集を見ればと言えるものを目指して」とのエールもありました。また、「他者に対して養護教諭の独自性を伝えるものに」「実践を基盤としたものであってほしい」「根拠とな

る資料をできるだけ付けて」などの要望も出されました。

今後の用語の検討については、「プロジェクトで対応してほしい」「メンバーに養護教諭以外の人も入ってもらってはどうか」「他学会とも協力して」などの意見でした。

たくさんの貴重なご意見をありがとうございました。これらの内容をふまえて、今年度から発足した学会活動委員会が中心となり検討を深めてまいりますと思います。

なお、学会 HP には 30 語の「英語表記」と「定義」を掲載しています。会員外の方にも広くご紹介いただくとともに、会員の皆さまにおかれましては、引き続きご意見をお寄せいただきますようお願いいたします。

(2)「養護教諭の職業倫理」に関する 意見交流

世話人：鎌田尚子（女子栄養大学）

竹田由美子（東京福祉大学）

【はじめに】養護教諭は専門職として、子どもの生命、基本的人権、生存と尊厳、健康権を擁護し、保護者の代弁者となり守秘義務を遵守し、課題解決のために多様な専門家と情報を共有している。近接領域の医師、歯科医師、学校薬剤師、看護師、臨床心理士、ソーシャルワーカー、管理栄養士等はずべて倫理規定／綱領を持っており、研修会では「養護教諭は職業倫理を持っていないのか」と指摘される状況にある。支援のための連携や協力と事例研究や共同研究のために、専門職としての条件である「倫理的であること」を社会に表明し、保証する根拠となる倫理規定／綱領を持つ必要がある。今回、子どもの健康問題が人権に関わり、家族への介入も時として必要になり、保護者への助言や保健指導を担当する養護教諭の職業倫理規定について皆さまとの意見交流を企画した。この意見交流は「養護教諭の職業倫理に関する規定」

の検討委員会活動の一貫として、他のメンバー（中村朋子（愛知東邦大学）、丸井淑美（狭山市立入間野中学校）、吉田あや子（西南女学院大学）、渡邊敦子（大東文化大学第一高等学校））とともに運営した。

【意見交流の目的】

- ①職業倫理規定を必要と感じた事実やニーズ、倫理的なジレンマを感じた事例を集める。
- ②養護教諭の専門職確立には、職業倫理規定／綱領が必要であることを共有する。
- ③養護教諭の意見を聞き、知らせ、広める。

【意見交流の流れ】

参加者は 38 名で、養護教諭 19 名、大学関係者 19 名であった。4 グループに分かれて目的を共有した後、職務や仕事上に遭遇した事例にみるジレンマや職業倫理の必要性について自由に話し合い、全体発表で共有した。

以下は、参加者へのアンケート結果も加えてまとめた意見交流の概要である。

「参加動機」は、「知らない言葉や考え方だから。教育職員にはないから疑問。専門職として是非とも必要。」まで温度差があった。

概ね参加者の声は「子どもの生命の基盤に立つことを知って良かった。興味を持った。問題に悩んだときにいつも感じているジレンマで、医療機関受診の判断に管理職から難色を示されて困るので最低判断基準があるとよい。社会から養護教諭に求められる説明責任と子どもへのより良い健康サービスのために必要。」と好評であり、「話し合いの時間が少ない。もっと時間をかけて話し合いたい。」等であった。

「満足度」は、満足 10/15、普通 4/15 であった。「判断や決断の基準の必要性」は、必要 12/16、わからない 4/16 であり、必要の理由は、「一人配置のためモデリングの対象がない。判断に迷うことが多々あった。周囲に示すためにも基準がほしい。専門職であるから根拠・エビデンスは必要。拠り所があれば安心して仕事と一貫した行動がとれる。」であった。

「ジレンマの経験」は、あり10/16で、その内容は救急処置8人、健康相談活動5人、保健指導3人であった。一生懸命取り組みれば取組むほど「これで良かったのか」と悩むが、それが職業としての発展に繋がるという姿が捉えられた。

【感想・意見】「捉え方の違いなど、様々な意見が聞けて良かった。倫理綱領のための事例と判例をもとに現場の養護教諭の討議も必要と痛感。日々の忙しさの中に原点に帰って専門性を学べた。とても重要な視点の研究である。十分に検討しあせらず何らかの指針が出せればよい」などであった。

今後とも、ご意見やジレンマ、判断基準の他者との差異などの事例のご提供を下記までお願いいたします。

「養護教諭の職業倫理に関する規定の検討委員会」

代表：女子栄養大学 鎌田尚子

FAX：049-282-3609

E-mail：kamata@eiyo.ac.jp

「役員選挙に関する内規」の改正案、「常任理事に関する内規」および「学術集会の開催に関する内規」の提案があり、原案通り承認された。

理事選挙結果の報告では、吉田瑠美子選挙管理委員会委員長から活動経過が説明された後、選挙結果が公表された。地区別で選出された理事は次のとおりである。

- * 北海道・東北地区：小林央美（弘前大学）
- * 関東地区：三木とみ子（女子栄養大学）
鈴木裕子（国士舘大学）
- * 中部地区：後藤ひとみ（愛知教育大学）
下村淳子（愛知学院大学）
- * 近畿地区：徳山美智子（大阪女子短期大学）
- * 中国・四国地区：高橋香代（岡山大学）
- * 九州地区：吉田あや子（西南女学院大学）

第18回（2010年）学術集会の開催地は大阪、学会長は楠本久美子会員（四天王寺国際仏教大学短期大学部）であることが報告された。

総会の後、第17回学術集会について学会長の面澤和子会員（弘前大学）より2009年10月10日～11日に弘前大学で開催するとの挨拶があった。

なお、学術集会終了後に「役員選出の内規」に則って理事長選出のため新理事が招集され、互選によって現理事長が再任された。

日本養護教諭教育学会 2008年度総会報告（速報）

2008年度総会は会員170名（含む委任状96名）の出席により、高橋香代学会長と駒田玉美会員による議長のもとで審議がすすめられた。その概要は下記のとおりである。

2007年度事業報告、2007年度決算・監査報告は原案通りに承認された。2008年度事業経過報告では、常任理事の役割に関する規定の検討、学術集会の開催地および学会長の推薦に関する規定の検討を計画どおりに行ったこと、学会誌投稿奨励研究の選定方法についての検討、学会活動委員会の活動として「養護教諭の職業倫理に関する検討」を進めていること等の報告があり承認された。

2009年度研究助成金対象研究については「幼稚園における養護教諭の配置と役割に関する研究」（井澤昌子他）と「養護診断における効果的な問診に関する研究」（吉田あや子他）の2件が採択された。

2009年度 研究助成金研究の選定報告

研究活動担当理事 高橋 香代

2008年9月10日の締切りで募集した2009年度研究助成金対象研究につきましては、会員から3件の応募がありました。

選定作業は、10月17日開催の第3回理事会において、選定基準（2006年度総会承認）に則って行いました。その結果、研究の目的・独自性、

研究方法、助成金の使途が優れている下記の2題を選定いたしました。

採択された研究課題は、1)「幼稚園における養護教諭の配置と役割に関する研究—園長の意見を中心として—」(代表者:井澤昌子(名古屋学芸大学)、大川尚子(関西福祉科学大学)、2)「養護診断における効果的な問診に関する研究」(代表者:吉田あや子(西南女学院大学)、柴崎卓巳子(赤村立赤中学校)、松本恵(福岡市立梅林中学校)であり、2008年度総会にて提案し承認をいただきました。

なお研究助成金を受けた研究は、その成果を学術集会及び学会誌に発表することが義務づけられていますので、研究終了後1年以内をめどに公表される予定です。

研究助成金対象研究は、学会共同研究とは異なり、会員が自主的に応募する研究です。2010年度研究助成金対象研究の募集も来年度に行われる予定ですので、会員の皆様にはご準備をお願いします。

2008年度理事選挙について

理事長 後藤ひとみ

本会にとって初めてとなる理事選出のための選挙が行われました。その結果は、総会報告(速報)の通りです。8月14日に選挙管理委員長より理事会宛に「投票用紙の開票、集計が無事に終わったこと、理事当選者に諾否確認の封書を送ったこと」の報告がありました。今回の全体投票率は選挙有権者510人中264人(51.8%)、ブロック別では「北海道・東北」42人(42.4%)、「関東」67人(56.8%)、「中部」61人(56.0%)、「近畿」40人(62.5%)、「中国・四国」33人(50.8%)、「九州」21人(38.2%)とのことでした。会員諸氏のご協力にお礼申し上げるとともに、選挙管理委員会(吉田瑠美子委員長、岡田加奈子委員、小

林央美委員、平川俊功委員)のご尽力に深く感謝いたします。選挙管理にかかわる諸手続きに関しましては、今回の経験を生かしてより円滑な運営となるよう次回選挙に反映させてまいりたいと思います。会員の皆さまにおかれましては、今後とも本会へのご支援の程をお願い申し上げます。

事務局より

会員名簿(2008年10月発行)を作成し、学術集会の場で配付しました。当日、参加されなかった会員の方には今般同封いたしました。修正・変更がございましたら、1月末日までにFAXまたはEメールにてお知らせください。

編 集 後 記

今年もあと僅かとなりました。この1年は皆様にとってどのような年だったでしょうか。今年度の反省点を振り返り、来年に向けてまた新たな第一歩を踏み出したいと思います。来年度もますます養護教諭がより良い環境で仕事できますよう共に力を合わせて頑張りましょう。良いお年をお迎えください。(F)

